

エコアクション 21 環境経営レポート

2025 年度 （第 18 期）

（対象期間：2025 年 3 月 1 日～2026 年 2 月 28 日）

Ideal Holdings Co.,Ltd.

Ideal group

Ideal Construction Co.,Ltd. Ideal Hardware Co.,Ltd.



***Ideal Holdings* 株式会社**

〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町旅石 45-2

TEL.092-937-7700

FAX.092-937-7701

2026 年 5 月 25 日 発行

目 次

1. 組織の概要	
(1) 組織の概要	2
(2) 主な事業内容	3
2. エコアクション 21 の対象範囲	4
3. 環境経営方針	4
4. エコアクション 21 実施体制	5
5. 環境経営目標	
(1) 二酸化炭素排出量のエネルギー別・サイト別排出構造	5
(2) 環境経営目標	7
6. 環境経営計画	8
7. 環境経営目標の実施結果とその評価	
(1) 環境経営目標の達成状況	9
(2) 各目標項目の経年実績変化	10
①二酸化炭素排出量の削減	10
②廃棄物排出量の実績	11
③水使用量の実績	11
④グリーン購入推進の実績	12
⑤化学物質の適正使用・適正管理	12
⑥環境に配慮した自社製品の販売・拡大	12
8. 環境経営計画の取組結果とその評価	13
9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	
(1) 環境経営目標	14
(2) 環境経営計画	15
10. その他の環境活動	
(1) 太陽光パネルの設置	16
(2) さぎん SDGs 私募債の活用	16
(3) 緊急避難訓練	17
(4) 第一土曜日清掃活動	17
11. 環境関連法規等の遵守結果	18
12. 代表者による全体評価と見直しの結果	
(1) 取組の全体評価	18
(2) 見直しの結果	18

1. 組織の概要

(1) 組織の概要

①名称及び代表者名

社名	Ideal Holdings 株式会社	Ideal Hardware 株式会社	Ideal Construction 株式会社
代表者名	古賀 裕子	緒方 和臣	春田 宏和

②所在地

本社・工場 〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町旅石 45-2
第二工場 〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町 49-1

③環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 古賀 裕子 TEL.092-937-7700 FAX.092-937-7701
担当者 浦谷 真凜 Mail:hldgs@ideal-grp.co.jp

④事業内容

- ・管理会社
- ・建築資材用スチール、ステンレス、アルミ製品の設計、製作及び施工
- ・建築一式工事・屋根工事・鋼構造物工事・板金工事・内装仕上工事・建具工事

⑤事業の規模

売上額 2025 年度（第 18 期） 億円

区分	本社	工場	第二工場	合計
従業員	16 名	11 名	0 名	27 名
延べ床面積	121 m ²	865 m ²	489 m ²	1,475 m ²

⑥事業年度 3 月～翌年 2 月

⑦法人設立年月日 2008 年 3 月

⑧資本金 5 千万円

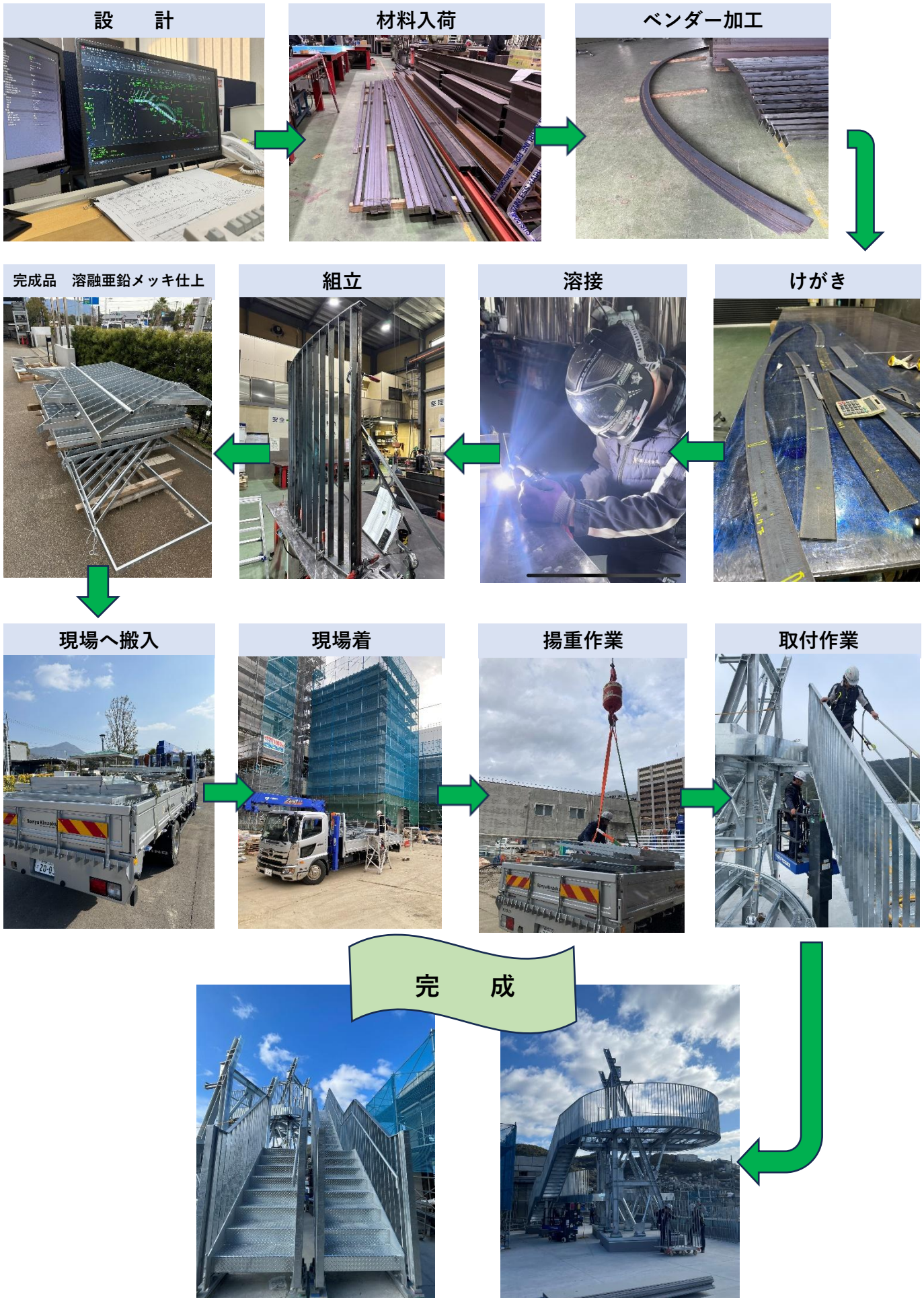
(2) 主な事業内容

建築一式工事、建築資材用金属製品設計から施工を主業としています。

【建築一式工事】 施工例



【建築資材用金属製品設計から施工】 工程例



2. エコアクション 21 の対象範囲

エコアクション 21 の対象範囲は、以下のとおりです。

- (1) 対象組織 Ideal Holdings(株)・Ideal Hardware(株)・Ideal Construction(株)
本社・工場、第二工場
- (2) 対象活動
 - ・社所有の不動産管理
 - ・建築一式工事 ・建築資材用金物設計・製作・施工
- (3) 対象外組織 なし（全組織、全活動を対象とする）

3. 環境経営方針

基本理念

Ideal Holdings 株式会社・Ideal Hardware 株式会社・Ideal Construction 株式会社は、Ideal group として、すべての事業活動、製品から生じる環境への影響を的確に捉え、地球環境との調和・共生を目指します。

また、地球温暖化問題は次世代にも及ぶ長期的で人類共通の問題であることを十分に認識し、社員一同で未来につながる地球環境づくりに取り組みます。

行動指針

当社では環境経営システムを構築・運用し、適時見直し、特に以下の事項について重点的に取り組み、Ideal グループ全体で環境経営の継続的改善に努めます。

- 1. 省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
- 2. 廃棄物排出量の削減とリサイクルに努めます。
- 3. 節水に努め、水資源の保全に努めます。
- 4. グリーン購入に努めます。
- 5. 化学物質を適正に使用・管理します。
- 6. 環境に配慮した製造、施工に努めます。
- 7. 有資格者の増加、新たな事業展開を図ります。
- 8. 当社に適用される環境に関する法規制等を遵守します。
- 9. 環境への取組は、毎年環境経営レポートに取りまとめ、広く外部にも公表します。

制定日 2016 年 7 月 29 日

改定日 2025 年 11 月 1 日

Ideal Holdings 株式会社
代表取締役 古賀裕子

4. EA21 実施体制

環境経営システム 役割・責任・権限表

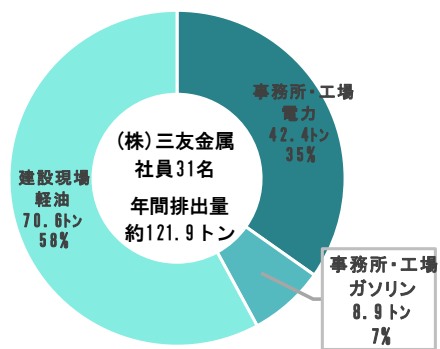
代表者（社長）	・環境経営に関する責任と権限を持つ。 ・環境管理責任者を任命する。 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知する。 ・環境経営目標・環境経営計画書・環境レポートを承認する。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理をする。 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認する。 ・毎年環境経営目標・環境経営計画書を作成する。 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告する。 ・環境経営レポートの確認をする。
E A21事務局	・環境管理責任者を補佐し、E A21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口として情報の収集と伝達を行う。
E A21委員会	・3ヶ月に1回開催し、取組状況を確認するとともに、内容について審議し問題点があれば、必要な是正措置の内容を決定する。
E A21責任者・担当者会議	・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の実施状況を確認する。 ・建設工事における環境活動を推進する。 ・自部門に関連する法規制等を遵守する。 ・E A21委員会開催前に開催し、取組状況を確認するとともに、各部門の実施評価を行い問題点があれば、必要な是正処理の話し合いを行い、E A21委員会に報告をする。
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。 ・問題点をE A21責任者・担当者会議に投げかける。

5. 環境経営目標

(1) 二酸化炭素排出量のエネルギー別・サイト別排出構造

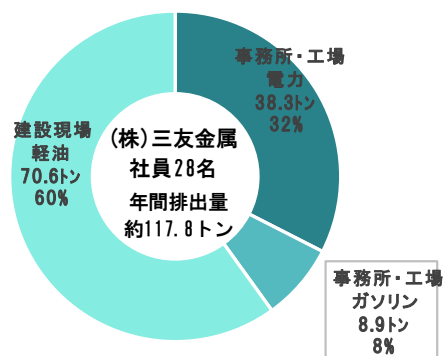
- ・弊社の二酸化炭素排出量を用途別でグラフ化すると次のようになります。
- ・毎年同じような割合ですが、主に二酸化炭素が排出されているのは、建設現場の移動手段で使用する工事用車両（ハイエース・トラック）の軽油です。現場数が多く、毎年全体の6割程度占めます。最短距離での往復や、相乗り工夫を凝らしていますが、大幅な削減には至っていませんが、2025年は年間の二酸化炭素排出量も減り、社員一人当たりで換算すると約3.7トン。前年度と比較すると「0.1トン」増加してしまいました。
- これは、人数が減ったためと、第二工場の電気使用量が加算されたためです。
- 年間グラフで見ると、軽油使用量が削減できていることが読み取れます。
- 引き続き、取り組んでいきます。

2022年 二酸化炭素排出量[トン]



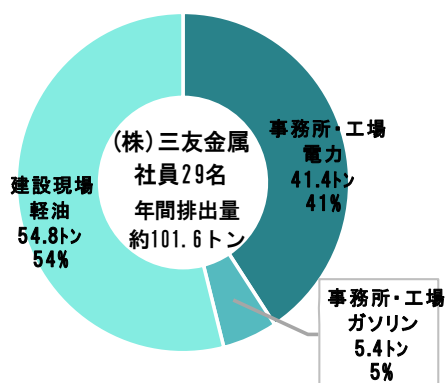
社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 3.92トン

2023年 二酸化炭素排出量[トン]



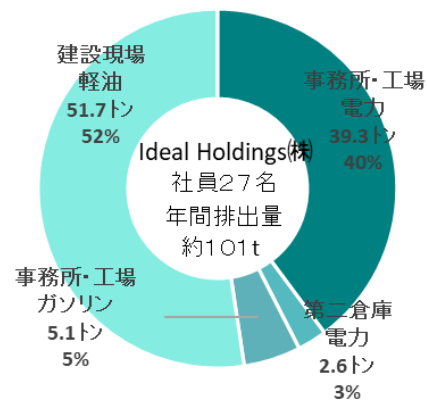
社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 4.2トン

2024年 二酸化炭素排出量[トン]



社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 3.6トン

2025年 二酸化炭素排出量[トン]



社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 3.7トン

(2) 環境経営目標

- ・環境経営目標は、以下の6項目14目標を設定し、2024年度を基準年とし、サイト区分（事務所・工場、建設現場、第二工場、全社）として単年度目標、中長期目標を設定しました。
- ・弊社は設計から製造、施工まで一貫性を持って工事を請け負うため、二酸化炭素排出量が売上に大きく左右するので二酸化炭素排出量の削減目標は、2024年度の基準年の売上と各年度の売上見込みの比率で補正し設定しました。

環境経営目標(2025年度・18期)

S-5

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年	単年度目標	中長期間目標			
			2024年度 (2024.3～2025.2)	2025年度 (2025.3～2026.2)	2026年度 (2026.3～2027.2)	2027年度 (2027.3～2028.2)	2028年度 (2028.3～2029.2)	
※は売上増加倍数(当社の事業計画に基づく)			基準	※1.16倍	※1.23倍	※1.29倍	※1.36倍	
1.二酸化炭素排出量の削減	事務所・工場 建設現場 第二工場 全社合計	kg-CO ₂	47,025	54,003 (△1%)	56,684 (△2%)	58,842 (△3%)	61,396 (△4%)	
		kg-CO ₂	54,810	62,943 (△1%)	66,067 (△2%)	68,583 (△3%)	71,559 (△4%)	
		kg-CO2	2,481	2,849 (△1%)	2,990 (△2%)	3,104 (△3%)	3,239 (△4%)	
		kg-CO ₂	104,316	119,795	125,741	130,529	136,194	
	(1)軽油使用量の削減	建設現場	L	21,244 (△1%)	24,397 (△2%)	25,608 (△3%)	26,583 (△4%)	27,736 (△4%)
	(2)ガソリン使用量の削減	事務所・工場	L	2,433 (△1%)	2,794 (△2%)	2,933 (△3%)	3,044 (△4%)	3,177 (△4%)
	(3)電気使用量の削減	事務所・工場	kWh	103,451 (△1%)	118,803 (△2%)	124,700 (△3%)	129,448 (△4%)	135,066 (△4%)
		第二工場	kWh	6,202 (△1%)	7,122 (△2%)	7,476 (△3%)	7,761 (△4%)	8,097 (△4%)
		全社合計	kWh	109,653	125,925	132,176	137,209	143,163
	2.廃棄物排出量の削減							
(1)一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	t	1.18 (△1%)	1.17 (△2%)	1.16 (△3%)	1.14 (△4%)	1.13 (△4%)	
(2)産業廃棄物のリサイクル率向上	工場 建設現場	%	85.0	85	85	85	85	
3 水使用量の削減	事務所・工場	m ³	259 (△1%)	256 (△2%)	254 (△3%)	251 (△4%)	249 (△4%)	
	第二工場	m ³	211 (△1%)	209 (△2%)	207 (△3%)	205 (△4%)	203 (△4%)	
	全社合計	m ³	470	465	461	456	451	
4 グリーン購入の推進(購入金額の割合)	事務所	%	80.0	80	80	80	80	
5 化学物質の適正使用・適正管理	工場	kg	適正使用・適正管理に努めます					
6 環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	受注件数	211	213	215	217	219	

※二酸化炭素排出量の削減目標＝基準年実績値×削減率×売上補正（ $\frac{\text{当該年度の売上見込}}{\text{基準年売上}}$ ）

備考) ①二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数
(本社・工場) 大和ハウス工業㈱の2019年度調整後排出係数(0.400kg-CO₂/kWh)を用いた。
(第二工場) 九州電力の2022年度調整後排出係数(0.407 kg-CO₂/kWh)を用いた。
また、目標値は基準年売上に対する当該年度売上比率で補正しています。
②()は基準年に対する削減率を示す。
③電気及び水の使用量は、メーターが事務所・工場と同一の為、「事務所・工場」で目標を設定した。
④事務所・工場の軽油は、フォークリフトの電動化により排出源がなくなった為目標から除外した。

6. 環境経営計画

- ・環境経営目標達成のために、以下の具体的活動項目決めて、全社員で取り組みました。

2025年度 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト区分	活動項目		スケジュール
(1)	軽油使用量の削減	建設現場	1	車内の整理整頓を行い、軽量化に努める。	年間を通して
			2	タイヤの空気圧を定期的に確認する。	年間を通して
			3	車両点検をこまめに行いスムーズな運転を心掛ける。	年間を通して
(2)	ガソリン使用量の削減	事務所・工場	1	段取りの良い打合せにて、無駄な行動をしない。	年間を通して
			2	急発進・急加速を行わない。	年間を通して
			3	タイヤの空気圧を定期的に確認する。	年間を通して
(3)	電気使用量の削減	事務所・工場 第二工場	1	室温は「夏25～28度」「冬20～26度」の範囲で、適宜過剰にならないように努める。	冷房時期（6月～9月） 暖房時期（12月～3月）
			2	休憩室・トイレなどの電灯は使用時のみ稼働させる。	年間を通して
			3	電気機器は設定を見直し、適切な値の元取り扱う。	年間を通して
			4	パソコンのスリープ・主電源OFFは条件を明確にし、意識して行う。	年間を通して
			5	フォークリフトの急発進・急加速を行わない。	年間を通して

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト区分	活動項目		スケジュール
(1)	一般廃棄物排出量の削減 （その他可燃ごみ）	事務所・工場	1	分別の徹底によるゴミの減量。	年間を通して
			2	消耗品は詰め替え・補充ができる製品を優先する。	年間を通して
(2)	産業廃棄物のリサイクル率向上 （リサイクル率85%）	工場 建設現場	1	現場での産業廃棄物分別作業を協賛会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	年間を通して
			2	収集時での分別の確認と報告を徹底する。	年間を通して

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト区分	活動項目		スケジュール
(1)	水使用量の削減	事務所・工場 第二工場	1	水の使用場所には節水シールを貼り、節水に心がける。	年間を通して
			2	水漏れ等見つけた場合は早急に周知・処置する。	年間を通して

4. グリーン購入の推進

取組目標		サイト区分	活動項目		スケジュール
(1)	グリーン購入の推進	事務所	1	Eco商品の対象商品を積極的に取り入れる。	年間を通して
			2	Eco商品の購入金額を記録。	年間を通して

5. 化学物質の適正使用・適正管理

取組目標		サイト区分	活動項目		スケジュール
(1)	化学物質の適正使用と適正管理	工場	1	各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。	年間を通して
			2	使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。	年間を通して

6. 環境に配慮した自社製品の販売・拡大

取組目標		サイト区分	活動項目		スケジュール
(1)	環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	1	ホームページの商品紹介を拡充させる。	年間を通して
			2	得意先・仕入先を開拓していく。	年間を通して

7. 環境経営目標の実施結果とその評価

(1) 環境経営目標の達成状況

- ・2025年度における環境経営目標の達成状況は以下のとおりです。
- ・設定した6項目12目標のうち、6項目14目標で10目標で達成、3目標未達成、1目標判定不可でした。

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年	2025年度 (2024年3月～2025年2月)		目標 達成率	目標 達成判定	
			2024年度 (R5.3～R6.2) 実績値	目標値	実績値			
二酸化炭素排出量 の削減	事務所・工場	kg-CO ₂	47,025	54,003	44,365	122%	◎	
	建設現場	kg-CO ₂	54,810	62,943	51,668	122%	◎	
	第二工場	kg-CO2	2,481	2,849	2,648	108%	○	
	全社合計	kg-CO2	104,316	119,795	98,681	121%	◎	
1	(1)軽油使用量の削減	建設現場	L	21,244	24,397	20,027	122%	◎
	(2)ガソリン使用量の削減	事務所・工場	L	2,433	2,794	2,183	128%	◎
	(3)電気使用量の削減	事務所・工場	kWh	103,451	118,803	98,250	121%	◎
		第二工場	kWh	6,202	7,122	6,505	109%	○
		全社合計	kWh	109,653	125,925	104,755	120%	◎
	廃棄物排出量の削減							
2	(1)一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	kg	1,180	1,170	1,184	99%	◎
	(2)産業廃棄物の リサイクル率向上	工場 建設現場	%	85.0	85	81	95%	△
3	水使用量の削減	事務所・工場	m ³	259	256	280	91%	△
		第二工場	m ³	211	209	—	—	—
		全社合計	m ³	470	465	—	—	—
4	グリーン購入の推進 (購入金額の割合)	事務所	%	80	80	91	114%	◎
5	化学物質の 適正使用・適正管理	工場	kg	化学物質の 適正使用量・適正管理に努めます			—	○
6	環境に配慮した 自社製品の販売・拡大	事務所・工場	件 (受注件数)	211	213	211	99%	△

備考) ・二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数は、

(本社・工場) 大和ハウス工業㈱の2019年度調整後排出係数 (0.4kg-CO₂/kWh) を用いた。

(第二工場) 九州電力の2022年度調整後排出係数 (0.407kg-CO₂/kWh) を用いた。

- ・目標達成率の算定方法
削減目標の場合 : 目標値/実績値×100 [%]
増加目標の場合 : 実績値/目標値×100 [%]

- ・目標達成判定の区分定義
◎ : 達成率≥120% ○ : 120>達成率≥100% △ : 100>達成率≥80 × : 達成率<80

※ なお、第二工場については新社屋工事の為、弊社管理下になかったため計測不可能だった。

(2) 各環境経営目標の経年実績変化

①二酸化炭素排出量の削減(サイト：全体)

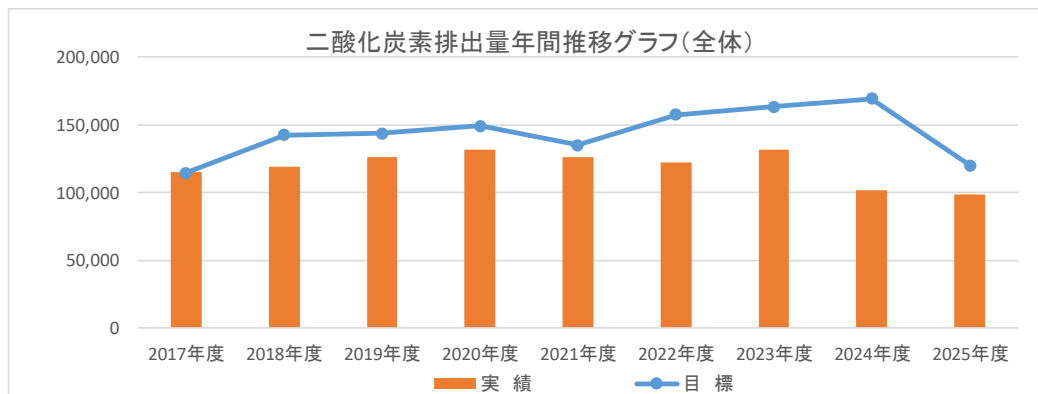
- ・2017年から取り組みだしたエコアクション21ですが、取組の結果がでていているように思えます。弊社の二酸化炭素の主な発生原因は現場移動やトラックの搬入等で使用される軽油である為、軽油使用量の削減に注力しています。

下記の年間推移グラフを比べると目標が増えている様に見えますが、これは売上を想定した目標です。2024年に基準年を設定しました。2025年も目標達成しました！

二酸化炭素排出量の年間推移グラフ(売上対比)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目 標	114,511	142,552	143,456	149,111	135,006	157,357	163,349	169,184	119,795
実 績	115,126	119,249	126,151	131,606	125,991	121,836	131,209	101,601	98,682

(単位：kg・CO₂)



②廃棄物排出量の実績(サイト：全体)

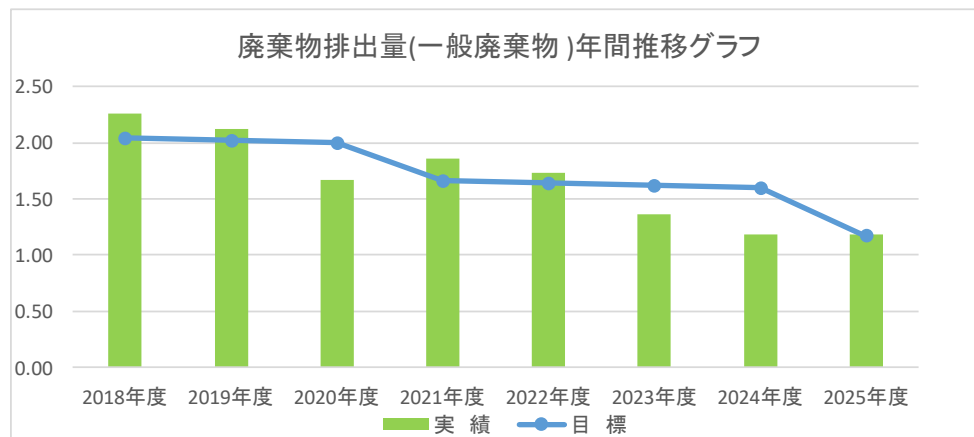
1) 一般廃棄物排出量

- ・一般廃棄物が目標達成にあと少しで及びませんでした。

廃棄物排出量(一般廃棄物)年間推移グラフ

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目 標	2.04	2.02	2.00	1.66	1.64	1.62	1.60	1.17
実 績	2.26	2.12	1.67	1.86	1.73	1.36	1.18	1.18

(単位：t)



2) 産業廃棄物排出量

- 産業廃棄物の分別は定着し、リサイクル出来ています。

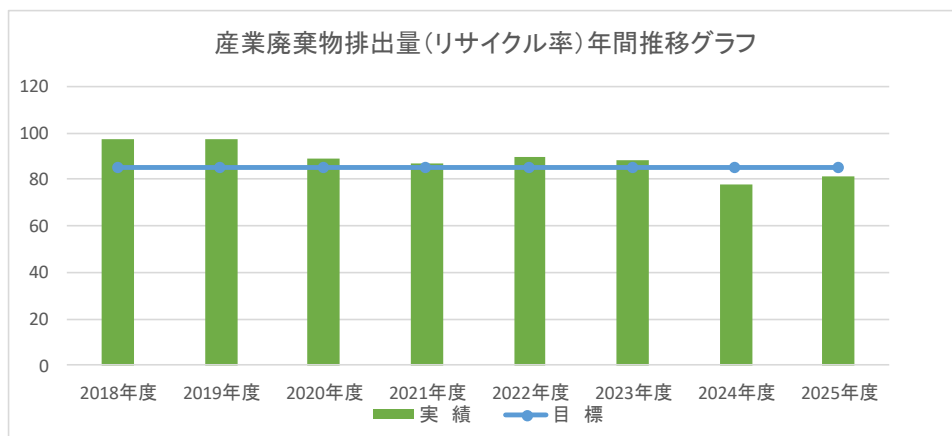
今期は自社の新社屋建設等があり資源化率が90%のコンクリ塊などが多く排出されたのでリサイクル率が下がり、目標達成できませんでした。

目標達成ならず!

廃棄物排出量（産業廃棄物）年間推移グラフ

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目 標	85	85	85	85	85	85	85	85
実 績	97	97	89	87	90	88	78	81

(単位：%)



③水使用量の実績（サイト：事務所・工場）

- 水の使用量は達成できませんでした。原因としては、2024年の福岡県の年間降水量1971.5mmに対して2025年は1541.5mm（気象庁データ）となっており、植栽が多い弊社では水道の使用量が増えたのだと思われます。

※2021年度は立体駐車場施工の際。水道管破損の為、使用量が大幅に増加しています。

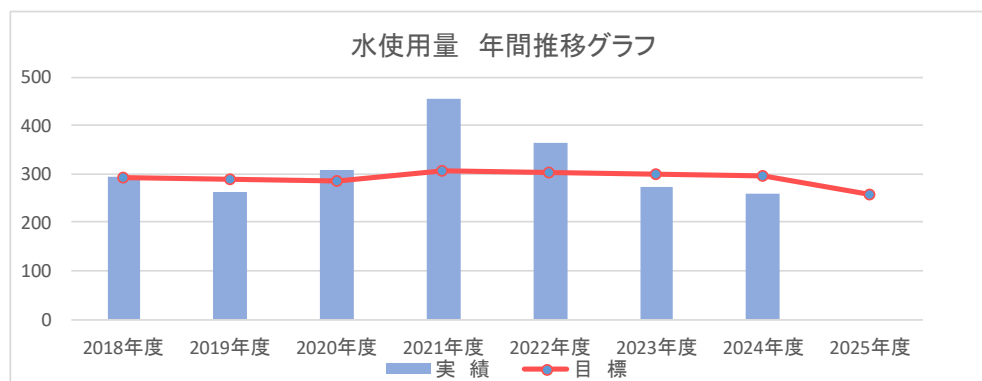
※第二工場の水使用量の計測が新社屋工事の為、弊社管理下になく、判定ができませんでした。

上下水道使用量の年間推移グラフ

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目 標	291	288	285	306	303	300	297	256
実 績	294	264	309	456	366	273	259	-

(単位：m³)

判定不能



④グリーン購入の推進の実績（サイト：事務所・工場）

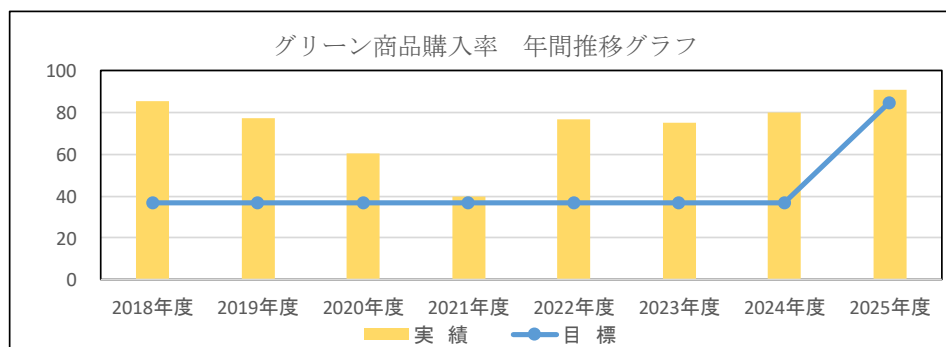
- ・本年度もグリーン購入を有効に使うことができ、目標達成できました。



グリーン購入推進の年間推移グラフ

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目 標	37	37	37	37	37	37	37	85
実 績	86	77	61	40	77	75	80	91

（単位：％）



⑤化学物質の適正使用・適正管理の実績（サイト：事務所・工場）

- ・主業である建設金物の製作過程において使用する化学物質を含む塗料の購入量を管理しています。
- ・使用量の把握が難しい為、使用する分だけ購入し年間購入量を記録しています。



- ・各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
実 施	○	○	○	○	○	○	○	○

- ・使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
実 施	○	○	○	○	○	○	○	○

⑥環境に配慮した自社製品の販売・拡大の実績（サイト：事務所・工場）

- ・設計から製造、施工まで一貫性をもって請け負う弊社の強みを生かし、建築物の耐久性のある建築物造りの提案や納期短縮に努めています。
- ・また、地域環境に配慮した振動・騒音の軽減にも取り組み、現場では産廃0を目標として各現場で分別。5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の推進を行っています。

環境に配慮した自社製品の販売・拡大の年間推移



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目 標	181	182	185	217	219	221	224	215
実 績	171	247	215	257	253	225	211	220

（単位：件）

8.環境経営計画の取組結果とその評価

- ・環境経営計画の取組結果とその評価は以下のとおりです。
- ・設定した6項目14目標のうち、6項目9目標で達成、3目標未達成、1目標判定不可でした。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1) 軽油使用量の削減	建設現場	◎	車内の整理整頓を行い、軽量化に努める。	○
			タイヤの空気圧を定期的に確認する。	○
			車両点検をこまめに行いスムーズな運転を心掛ける。	○
(2) ガソリン使用量の削減	事務所・工場	◎	段取りの良い打合せにて、無駄な行動をしない。	○
			急発進・急加速を行わない。	◎
			タイヤの空気圧を定期的に確認する。	○
(3) 電気使用量の削減	事務所・工場 第二工場	◎	室温は「夏25～28度」「冬20～26度」の範囲で、適宜過剰にならないように努める。	○
			休憩室・トイレなどの電灯は使用時のみ稼働させる。	◎
			電気機器は設定を見直し、適切な値の元取り扱う。	○
			パソコンのスリープ・主電源OFFは条件を明確にし、意識して行う。	○
			フォークリフトの急発進・急加速を行わない。	○

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1) 一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	○	分別の徹底によるゴミの減量。	△
			消耗品は詰め替え・補充ができる製品を優先する。	○
(2) 産業廃棄物のリサイクル率向上 (リサイクル率85%)	工場・建設現場	○	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	◎
			収集時での分別の確認と報告を徹底する。	○

3. 水使用量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1) 水使用量の削減	事務所・工場 第二工場	△	水の使用場所には節水シールを貼り、節水に心がける。	△
			水漏れ等見つけた場合は早急に周知・処置する。	○

4. グリーン購入の推進

取組目標	サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1) グリーン購入の推進	事務所	◎	エコ商品の対象商品を積極的に取り入れる。	◎
			エコ商品の購入金額を記録。	○

5. 化学物質の適正使用・適正管理

取組目標	サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1) 化学物質の適正使用 と適正管理	工場	◎	各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。	◎
			使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。	◎

6. 環境に配慮した自社製品の販売・拡大

取組目標	サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1) 環境に配慮した 自社製品の販売・拡大	事務所・工場	◎	SNS等の製作や施工紹介を拡充させる。	◎
			得意先・仕入先を開拓していく。	○

備考) 目標達成状況判断区分 ◎: 120%以上 ○: 100%以上 120%未満 △: 80%以上 100%未満 ×: 80%未満 —: 判定不可

取組状況判断区分 ◎: よく実行されている ○: 実行されている △: 実行されているが十分ではない ×: 実行されていない
—: 判定できない、該当しない

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

(1)環境経営目標

- ・次年度の環境経営目標は今まで通り 6 項目 14 目標で設定した中長期目標(2024 年度)を適用します。

環境経営目標(2026年度・19期)

S-5

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年	単年度目標	中長期間目標		
			2024年度 (2024.3～2025.2)	2025年度 (2025.3～2026.2)	2026年度 (2026.3～2027.2)	2027年度 (2027.3～2028.2)	2028年度 (2028.3～2029.2)
※は売上増加倍数(当社の事業計画に基づく)			基準	※1.16倍	※1.23倍	※1.29倍	※1.36倍
1.二酸化炭素排出量の削減	事務所・工場	kg-CO ₂	47,025	54,003 (△1%)	56,684 (△2%)	58,842 (△3%)	61,396 (△4%)
	建設現場	kg-CO ₂	54,810	62,943 (△1%)	66,067 (△2%)	68,583 (△3%)	71,559 (△4%)
	第二工場	kg-CO ₂	2,481	2,849 (△1%)	2,990 (△2%)	3,104 (△3%)	3,239 (△4%)
	全社合計	kg-CO ₂	104,316	119,795	125,741	130,529	136,194
(1)軽油使用量の削減	建設現場	L	21,244	24,397 (△1%)	25,608 (△2%)	26,583 (△3%)	27,736 (△4%)
(2)ガソリン使用量の削減	事務所・工場	L	2,433	2,794 (△1%)	2,933 (△2%)	3,044 (△3%)	3,177 (△4%)
(3)電気使用量の削減	事務所・工場	kWh	103,451	118,803 (△1%)	124,700 (△2%)	129,448 (△3%)	135,066 (△4%)
	第二工場	kWh	6,202	7,122 (△1%)	7,476 (△2%)	7,761 (△3%)	8,097 (△4%)
	全社合計	kWh	109,653	125,925	132,176	137,209	143,163
2.廃棄物排出量の削減							
(1)一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	t	1.18	1.17 (△1%)	1.16 (△2%)	1.14 (△3%)	1.13 (△4%)
(2)産業廃棄物のリサイクル率向上	工場 建設現場	%	85.0	85	85	85	85
3 水使用量の削減	事務所・工場	m ³	259	256 (△1%)	254 (△2%)	251 (△3%)	249 (△4%)
	第二工場	m ³	211	209 (△1%)	207 (△2%)	205 (△3%)	203 (△4%)
	全社合計	m ³	470	465	461	456	451
4 グリーン購入の推進(購入金額の割合)	事務所	%	80.0	80	80	80	80
5 化学物質の適正使用・適正管理	工場	kg	適正使用・適正管理に努めます				
6 環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	受注件数	211	215	217	220	222

備考) ・二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数
(本社・工場) 大和ハウス工業㈱の2019年度調整後排出係数(0.400kg-CO₂/kWh)を用いた。
(第二工場) 九州電力の2022年度調整後排出係数(0.407kg-CO₂/kWh)を用いた。
・二酸化炭素排出量の目標値は、基準年売上に対する伸び率(売上増加率)を考慮して以下の式で設定した。

$$\text{二酸化炭素排出量の削減目標} = \text{基準年実績値} \times \text{削減率} \times \text{売上補正} \left(\frac{\text{当該年の売上見込}}{\text{基準年売上}} \right)$$

- ・()は基準年に対する削減率を示す。
- ・電気及び水の使用量は、メーターが事務所・工場と同一の為、「事務所・工場」で目標を設定した。
- ・事務所・工場の軽油はフォークリフトの電動化で排出源がなくなった為、目標から除外した。

(2)環境経営計画

次年度の環境経営計画は、本年度と同様で以下のとおりです。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト 区分	活動項目	
(1)	軽油使用量の削減	建設現場	1	車内の整理整頓を行い、軽量化に努める。
			2	タイヤの空気圧を定期的に確認する。
			3	車両点検をこまめに行いスムーズな運転を心がける。
(2)	ガソリン使用量の削減	事務所・工場	1	段取りの良い打合せにて、無駄な行動をしない。
			2	急発進・急加速を行わない。
			3	タイヤの空気圧を定期的に確認する。
(3)	電気使用量の削減	事務所・工場 第二工場	1	室温は「夏25～28度」「冬20～26度」の範囲で、適宜過剰にならないように努める。
			2	休憩室・トイレなどの電灯は使用時のみ稼働させる。
			3	電気機器は設定を見直し、適切な値の元取り扱う。
			4	パソコンのスリープ・主電源OFFは条件を明確にし、意識して行う。
			5	フォークリフトの急発進・急加速を行わない。

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト 区分	活動項目	
(1)	一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	1	分別の徹底によるゴミの減量。
			2	消耗品は詰め替え・補充ができる製品を優先する。
(2)	産業廃棄物のリサイクル率向上 (リサイクル率85%)	工場 建設現場	1	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。
			2	収集時での分別の確認と報告を徹底する。

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト 区分	活動項目	
(1)	水使用量の削減	事務所・工場 第二工場	1	水の使用場所には節水シールを貼り、節水に心がける。
			2	水漏れ等見つけた場合は早急に周知・処置する。

4. グリーン購入の推進

取組目標		サイト 区分	活動項目	
(1)	グリーン購入の推進	事務所	1	エコ商品の対象商品を積極的に取り入れる。
			2	エコ商品の購入金額を記録。

5. 化学物質の適正使用・適正管理

取組目標		サイト 区分	活動項目	
(1)	化学物質の適正使用 と適正管理	工場	1	各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。
			2	使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。

6. 環境に配慮した自社製品の販売・拡大

取組目標		サイト 区分	活動項目	
(1)	環境に配慮した 自社製品の販売・拡大	事務所・工場	1	ホームページの商品紹介を拡充させる。
			2	得意先・仕入先を開拓していく。

10. その他の環境活動

(1) 太陽光パネルの設置

- ・2013年11月に工場の広大な屋根を利用し、209枚の太陽光パネルを設置し、年間約49,793kWhの発電になっています。
- ・持続性可能な社会を目指すうえで、化石燃料に頼らない再生可能エネルギーの太陽光発電は、二酸化炭素削減において有効な取組です。

太陽光設備の概要

連系する電力系統: 高圧一般配電線

(三相3線、6.6kV、60Hz)

発電設備の種類: 太陽電池発電所

太陽電池容量: 52.25kW

パワーコンディショナ容量: 45kW

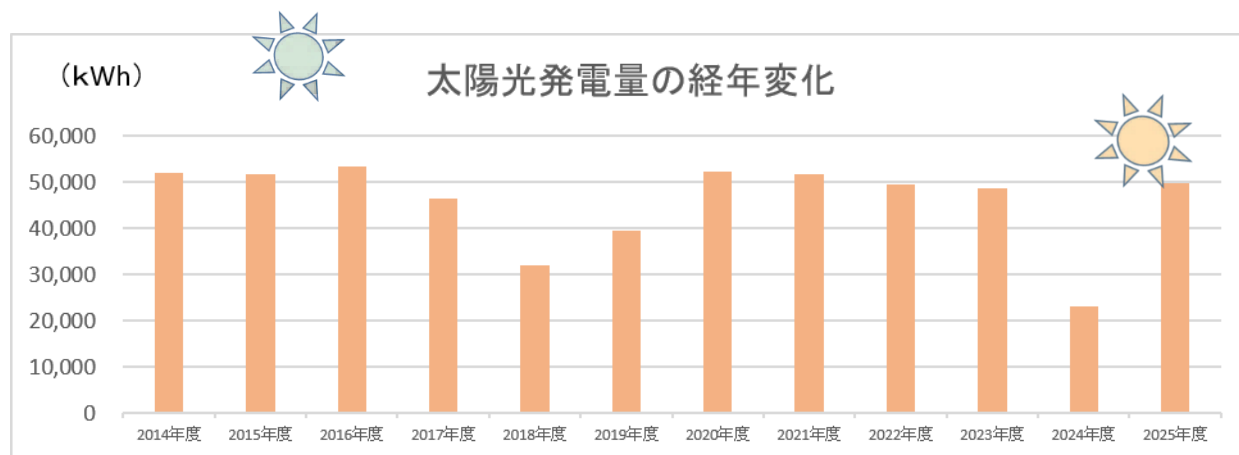
(10kW×4台、5kW×1台)

(モジュール板 209枚 H1650 W992)

1枚あたり 250W出力



2025年度の発電量=49,793kWh



※2024年10月～2025年2月まで、太陽光発電の機器の故障により発電量が落ちていました。2025年3月から修理を依頼し2025年度からは回復しています。

(2) SDGs 私募債 ～地域芽 未来芽 育む債～

佐賀銀行の私募債を活用。(2回目)

さぎん SDGs 私募債「地域の芽 未来の芽・育む債」は、SDGsの普及拡大と地域の社会的課題解決に取り組む社会貢献活動型の私募債であり、私募債発行金額の0.2%相当額の物品、寄付金などをSDGsに資する学校・団体等へ寄贈することで、弊社は地域社会に貢献してまいります。



(3) 緊急避難訓練

2026 年 5 月 20 日に緊急避難訓練を行いました。

想定した緊急事態 → 工場漏電からの火災

対応策

1. 具体的な対応策

- ① 第一発見者は、直ちに付近にいる人に知らせると共に、粉末消火器で初期活動を行う。
- ② 第一発見者及び近くにいる人は、消防署 119 番へ通報する。
- ③ 全従業員は、初期消火可能と判断される場合は、消火器にて初期消火する。
- ④ 二次火災を防ぐ為、可能なら電源盤の電源を遮断する。不可能ならば避難する。

2. 対応処置手順など

- ① 避難場所は、向かい新社屋駐車場とし、人員の確認及びけが人の情報を報告する。



(4) 第一土曜日の清掃活動

エコ活動の一環として毎月第一土曜日に、社屋及び社周辺の清掃活動を始業前に行っています。



毎月 1 回のエコ清掃は、散歩の近隣住民の方たちと
挨拶を交わしながら、
気持ちよい 1 日を迎えています。

11. 環境関連法規等の遵守結果

- ・2025年度（2025.3～2026.2）の事業活動で遵守すべき法令は以下のとおりで、遵守確認の結果、法令違反はありませんでした。
- ・また外部からの苦情や法令違反の指摘も過去3年間ありませんでした。

法令名称	要求事項	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物（委託）	○
	産業廃棄物（排出責任者）	○
	情報処理センターへの登録・確認	○
化学物質管理法（PRTR法）	SDSの確認、使用量の把握	○
フロン排出抑制法	簡易点検の実地	○
労働安全衛生法	健康診断の実施	○
地球温暖化対策推進法	事業者の責務	○
グリーン購入法	事業者及び国民の責務	○

備考）遵守状況の判定 ○：遵守 ×：不順守 —：該当なし

12. 代表者による全体の評価と見直しの結果

(1) 取組の全体評価

- ・エコアクション 21 活動を開始してから 10 年目となります。

取り組み自体は、全社員認識はあり、エコ活動など皆で取り組みをおこなっておりますが、昨年同様ワンパターン化している様にも思えます。

一人一人が主体性を持って、考え行動できるよう、各責任者は目標の掲げ方を工夫してください。

また、エコアクション 21 の取り組みは、単なる環境活動だけではなく、会社の無駄を見つけ利益体質をつよくもできる経営ツールです。

電気代や燃料費、廃棄物の削減はコスト削減に繋がり、業務の見える化や PDCA の実践は生産性向上にもつながり、環境への取組を通じて社の信頼性が高まり、採用や取引先からの評価向上にもつながります。

10 年目を節目として、改めて Ideal グループ全体で取り組みます。

(2) 見直しの結果

- ・2025 年度は第二工場の集計も追加しました。

2025 年 11 月にホールディングス化により分社を行い、新社屋が竣工したことで、サイトが変更になります。

2026 年 6 月中旬より新社屋始動しましたので、6 月～8 月の 3 か月運用実績で再度基準年を設定し、グループ全体でエコアクションに取り組むことを指示しました。

代表取締役 古賀 裕子